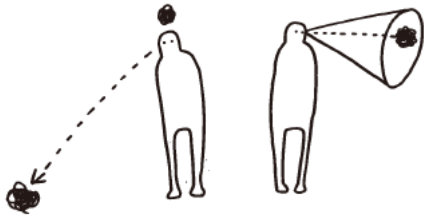
観察がはじめの一歩

観察する目を養うことが、考え、表現することにつながります。

1 観察力を鍛える

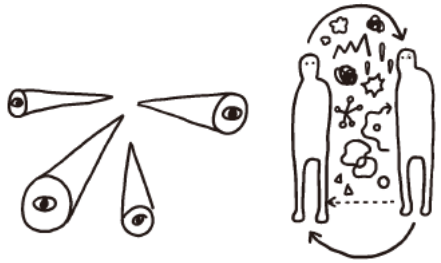


観察することは自分との対話。
何か気になる、ドキっとする。それがモヤモヤ。
でもここでモヤモヤは解決しないのです。

2 解釈・翻訳する

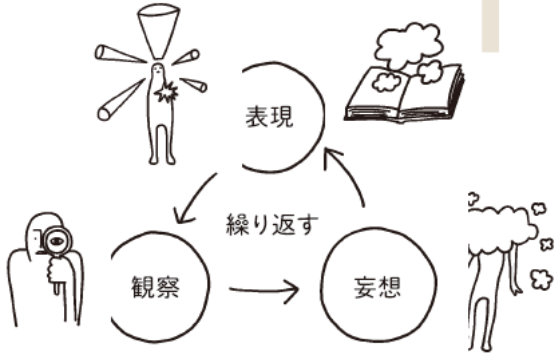
観察したものを共有し、
他者の解釈を知る事で新しい発見がうまれます。
これもデザインのプロセス。
モヤモヤがデザインへと変換されていきます。

3 対話の繰り返し



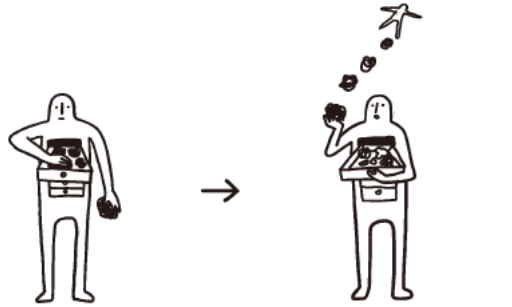
観察、話し合いを繰り返すと目が養われ、
何をするべきなのか見えてきます。

4 眼差し、妄想力を身につける



観察し、想像・妄想をして行動することは
デザインのはじまりです。

5 社会のモヤモヤを見つめ、問い続ける



自分の引き出しにどんどん入れていく。　何か思った時に表現として引き出す。

自分の引き出しにモヤモヤを入れていきます。
デザインのネタの引き出しの出来上がりです。
何か思った時に表現として
モヤモヤを引き出していきます。

見る目・視座

同じものでもどこから見るかによって
見え方が変わってきます。
好奇心をもって、いろんな角度や立場から
見ることでデザインが生まれます。

THE GREEN VISION
KUMAMOTO

くまもと 花とみどりの博覧会
第38回 全国都市緑化くまもとフェア
— THE GREEN VISION 未来への伝言 —

2022.3.19[sat]–5.22[sun]

『誰かの日常は、誰かの非日常』
～モノの見方を変えてみよう～

フォトオブザベーション

あなたの日常は、誰かの非日常かもしれない。
熊本高校生400人から集めたフォトオブザベーションを、さまざまな視点から深掘りし、グルーピングしてみよう

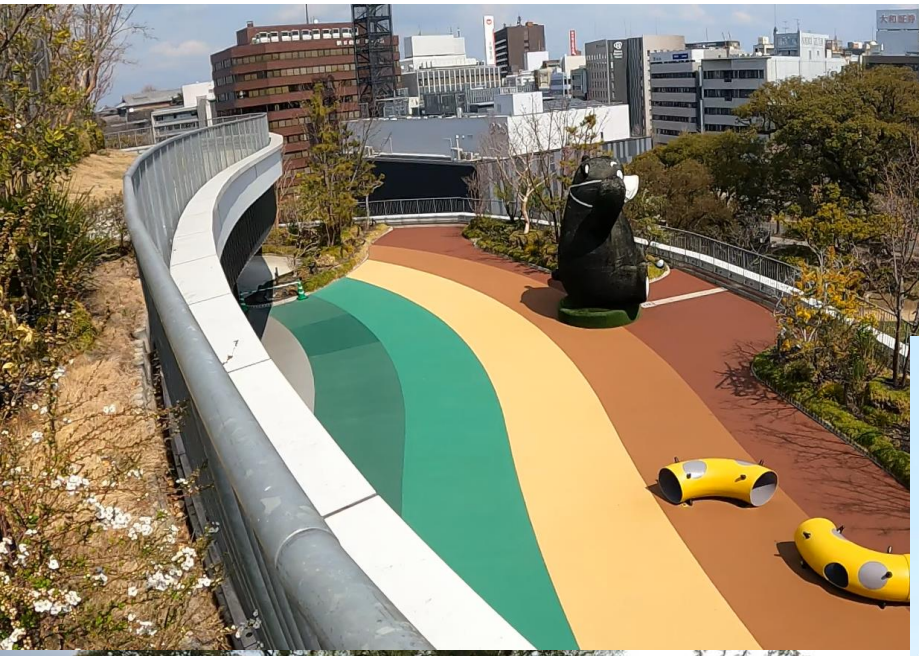
地元の物販

地元では当たり前のものも、
観光客から見たら珍しいものかもしれない。
みんなの身近にあるものも、
とっても魅力的なものかもしれない。

平面作品展示

見る人によって絵はの価値は変わります。
ある人から見たら平凡な絵でも
ある人がみたら涙を流します。
そんな絵の素敵な見せ方を考えよう。

会場　熊本のMICE施設



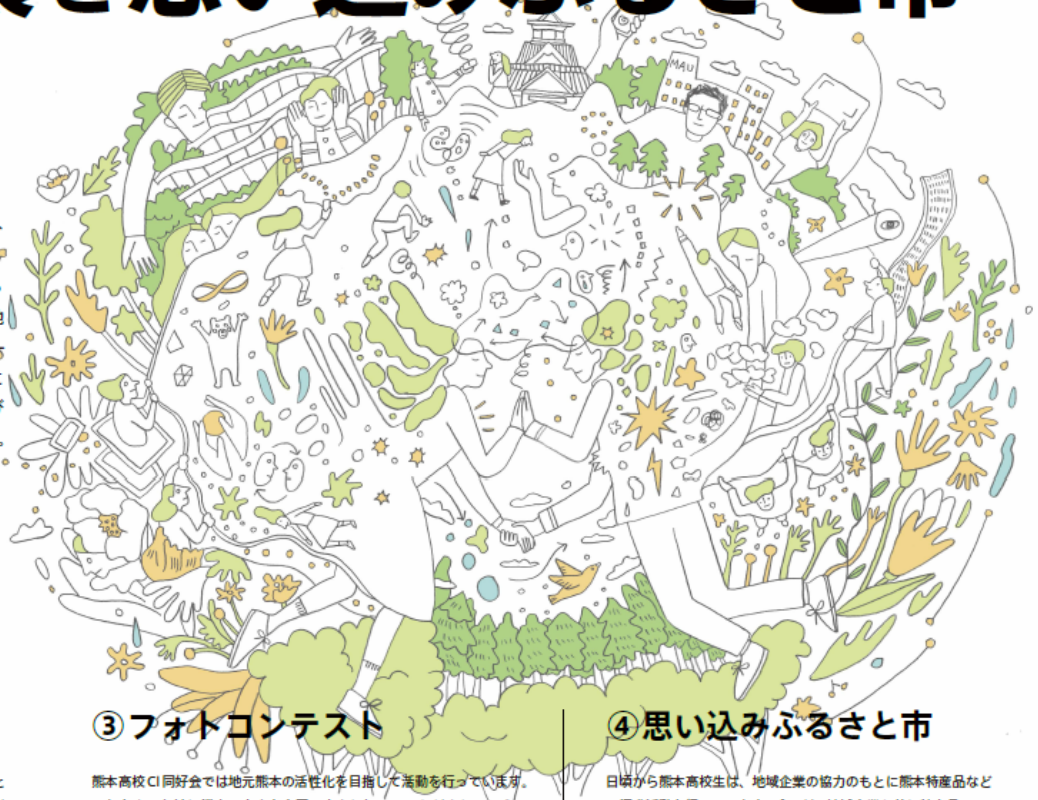
おもいこみデザイン展と思い込みふるさと市

熊本高校生が発信する地域の魅力

開催期間：2022.5.7(土) – 5.22(日)

熊本高校はフォト･オブザベーションを推進しており、ファシリテーターの養成も実施してきました。
この度、全国都市緑化フェアで生徒達が行ってきたフォト･オブザベーションをサクラマチクマモトのメインエントランスにおいて公開し、発信の場として２つのテーマ『進め、くまもと』『いのちの散歩道』で展示を行います。リアル展示と合わせ、この機会に学んだ新しい表現の方法である AR 展示も同時に行い、新しい空間デザインによって生徒の「気づき」や「問い」等の『思い』が『込め』られた展示会にしたいと考えています。また、熊本高校生が地域の企業とともに地域の特産品に関する探究活動を行っており、地域企業と共にサクラマチクマモト地下１階フードコートにおいて、『思い込みふるさと市』を企画し、その魅力を PR し販売を行います。さらに、来場された方々にとって、記念になるような AR フォトコーナーも設置します。この機会を通してみんなで考える未来や、新しい学びについて、武蔵野美術大学、パワープレイス、NTT 西日本、地域企業と共に創り上げていくことを目的としています。

展示出展生徒：フォト･オブザベーション 1, 2 年生・応募生徒（150 名程度）・華道部
参加生徒　　：総合的な探究の時間（きくらげ班・い草班・銘菓班・熊本城班）・CI(Creative Innovation) 同好会



展示の楽しみ方

①フォト･オブザベーション

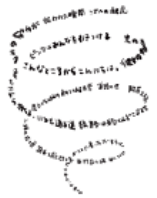
みんなと一緒に考える

「フォト・オブザベーション」は日常の中で気になること、問題点を探し撮影。なぜそれが気になったのかを言葉にし、想像しあるいは誰かと対話したり、共有・共感することで、そこにどんな意味があるのか、本質を見つけていきます。ここに展示してある木札は熊本高校の生徒たちの眼差しを追体験する事が出来ます。その見たものの先に何が広がっているのか、眺めて想像して、考えてみてください。

そして、今回は今までフォト･オブザベーションをしてきた武蔵野美術大学生の木札も散りばめています。

②AR展示

熊本高校の CI 同好会が 3D コンテンツ、ARを学び、未来の展示へとつながる新しい手法を取り入れました。ぜひ、この機会に体験してください。
STYLYは、高品質な AR/VR/MR 空間を制作・配信するプラットホームおよびアプリケーションです。その STYLY を利用した AR 展示になります。



会場にある QR コードを読み込むとＡＲ作品を体験できます。

STYLY　STYLY の アプリをダウンロード

NTT 西日本

③フォトコンテスト

熊本高校 CI 同好会では地元熊本の活性化を目指して活動を行っています。これをきっかけに熊本の良さを全国の方々に知っていただきたい、その思いから今回のフォトコンテストを実施しています。そこで、コンテストの賞品は熊本の企業にご協力いただきました。ぜひ賞品もチェックしてみてください。

応募方法

インスタグラムで @kumataka_ci をフォロー → ハッシュタグ #進めくまもとフォト をつけて投稿！

募集期間：4/15 ～ 5/15

④思い込みふるさと市

日頃から熊本高校生は、地域企業の協力のもとに熊本特産品などの探求活動を行っています。今回は、地域企業と共に特産品のPRと販売を行うショップを展開しています。テーマの１つ「進め、くまもと」と同様に熊本高校生の熊本への思いを存分に感じられる催しとなっています。
サクラマチクマモト地下１階フードコートにて開催していますので、是非お立ち寄りください。

参加・協力企業等

イナダ食品・オーガニックスペース・九州産交・共栄精密・熊本県くすのき園・グローカルクラウドファンディング・Co デザイン研究所・サクラマチクマモト・STYLY・天明堂・三菱みらい育成財団

フォトオブザベーション

「フォトオブザベーション」は日常の中で気になること、問題点を発見し撮影。なぜそれが気になったのか、文字にし、想像しあるいは誰かと対話したり、共有、共感することで、そこにどんな意味があるのか、本質を見つけていくための手法です。

テーマ
【進め、くまもと】 【命の、さんぽ道】

進め、くまもと。フォトコンテスト

地元クマモトの良さを全国の方々に知っていただきたい。その思いから今回、フォトコンテストを実施することにしました。そこで賞品につきましても熊本の企業にご協力いただきました。

応募方法

インスタグラムで @kumataka_ci をフォロー → ハッシュタグ #進めくまもとフォト をつけて投稿！

応募期間　2022.5.7(土)−5.15(日)　発表 2022.5.22(日)

AR 展示

熊本高校生らが制作した AR コンテンツを展示しています。フォトスポットからコメントタワーまで様々な作品をお楽しみください。

会場にある QR コードを読み込むとＡＲ作品を体験できます。

STYLY の アプリをダウンロード

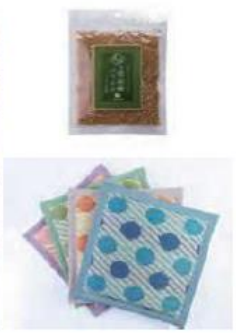
熊本高校企画
おもいこみデザイン展　2022.5.7(土)−5.22(日)
誰かの日常は、誰かの非日常。

SAKURA MACHI Kumamoto
1階メインエントランス

「い草」探究班

合同会社 Organic Space　社会福祉法人 熊本くすのき園　有限会社 イナダ食品

自然にこだわり「くまもと」の素材を生かしたい草の製品を販売しています。今回は３社で協力し、「い草コースター」や「藺草麺」、「藺草茶」など、い草の魅力を生かした様々な製品を販売いたします。



「きくらげ」探究班

共栄精密株式会社

精密部品の検査や加工が中心事業である共栄精密株式会社。しかし、他にも農業や福祉にも目を向け幅広い活動を行っています。特に人吉の特産品であるきくらげの栽培・販売を福祉施設の方や地元の学生と行うことで「多様性を認め合う社会構築」に貢献したいと考えています。今回は様々なきくらげ商品の他に「きくらげカレー」と「きくらげホットサンド」を販売いたします。

「銘菓」探究班

御菓子処 天明堂

歴史的な町並みが今でも残る熊本県川尻町。そこで二百余年和菓子を作り続けてきた天明堂。天明堂を含む６店の和菓子店が川尻の伝統を残そうと手をとりました。それが熊本が誇る和菓子職人グループ、「開懐世利六菓匠（かいろせりろっかしょう）」です。六菓匠の職人が一つずつつくった「開懐世利六菓匠肥後六花詰め合わせ」の実演や、「くまモンどら焼き」、「天明饅頭」など様々な和菓子の販売を行います。

「熊本城」探究班

熊本城

熊本城に興味を持っていただくきっかけとしてVR空間に出現させた熊本城へ、全国各地の方々がいつでもどこからでも訪れていただけるように探究活動に取り組んでいます。そして熊本城へ興味を持っていただき実際にも足を運んでいただきたいと考えています。今回は、熊本地震で崩落した瓦を特別に熊本県から譲り受け作成した『熊本城復興支援の記念アクリルボックス』も販売いたします。加藤清正になりきれる ARフォトスタンドもご用意しております。

熊本高校企画

思い込みふるさと市

日頃から熊本高校の生徒は地域企業の協力のもとに
熊本特産品などの探究活動を行っています。

2022.5.7–5.22 の土日のみ店頭販売

10:00 - 17:00　※商品は数量に限りがございますのでご了承ください。

お問い合わせ：kh-chem@g.bears.ed.jp

SAKURA MACHI Kumamoto

地下1階 #310「gallery」

武蔵野美術大学との連携

20名の生徒がチームに分かれてプロジェクト実行

CI同好会
① ARチーム
② 隠し絵チーム

AR展示のコンテンツ作成

地域
③ きくらげチーム
④ い草チーム
⑤ 銘菓チーム
⑥ 熊本城チーム

地域の企業と連携

ふるさと市の実施

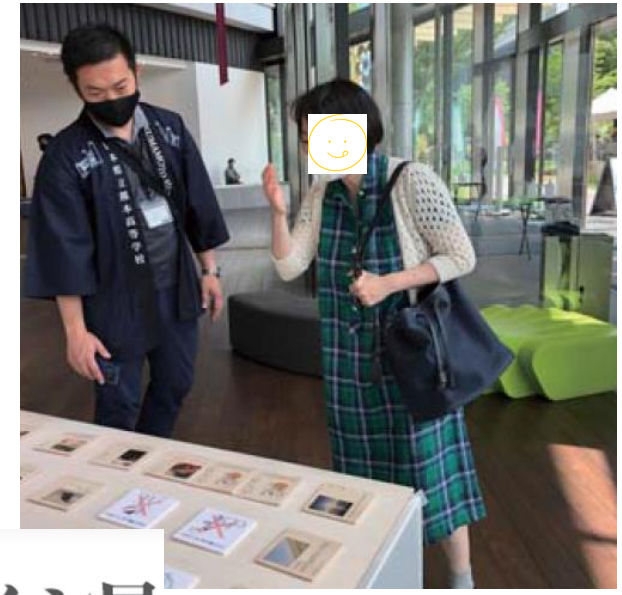
VR・AR作品も制作

熊本高校企画
おもいこみデザイン展
誰かの日常は、誰かの非日常。

熊本高校企画

おもいこみデザイン展

誰かの日常は、誰かの非日常。



熊本高校企画

おもいこみデザイン展

誰かの日常は、誰かの非日常。

写真左上：国内生産１位のい草、国内２位の生産量を誇るきくらげについては、「農福連携（農業と福祉の連携）」を掲げ、生産家と栽培・加工を手伝う福祉施設をつなぎながら、PR活動・販売をしている。い草を原料とした消臭スプレーは、生徒たちもボトル詰め、またラベルのデザインなども担当した。写真右上：銘菓班では、熊本県川尻町にある６軒の和菓子店が連携したグループ「開懐世利六菓匠」の和菓子をクラウドファンディングで販売することで、和菓子の魅力を発信している。写真下：博覧会の看板とくまモンを組み合わせたAR。タブレットで撮影し、その場でプリントアウトしてお渡ししている。

目　標	実施形態	関　係	対象学年	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
○グローバルでクリエイティブな視点から、自ら課題を見つけて探究し、答えのない問いに向き合う力をつける ○デジタル化を推進することにより知識習得を効率化し、探究型授業に時間を振り向ける	総合的な探究の時間	新教育課程(先行実施) ※新学習指導要領で推進される探究型授業へつながる	1年生	第1,2楽章（自己の関心の認				課題、テーマ探し ,探究活動）							
			2年生	第3楽章（地域SDGs コース／				研究型SDGsコース：学外連携を含めて探究を行う　パワーポイント・ポスター作製）							
			3年生	第3楽章（引き続き、グルー				プまたは個人で探究する）							
		探究支援	全学年	ワクワク研究（学校生活全般に関する、				ーション評価）・グローカルクラウドファンディング							
	WWL指定校	文科省指定校	全学年	九州内連携校・WWL指定他				校との連絡・協議							
	熊本県イノベーションハイスクール	熊本県教育委員会指定校	全学年	熊本県による校内外の資源やICTを活用したグローバルでイノベーティブな人材の育成の支援を受け各種活動を充実させる											
	ワクワクロスリアリティーフォーラム	三菱みらい財団指定校	全学年	全国都市緑化フェア AR・VR作品の作成と出品				xRの教育における活用方法の模索　例 VR学校や教室等の構築。VR空間でのフォーラムのやシンポジウム。ARを利用した授業の検討等。							
	大学連携・感性教育	武蔵野美術大学提携・芸術鑑賞	1年生	フォトオブザベーション				フォトオブザベーション授業への支援・							
			全学年	2020に連携協定→STEAM教育に向けてのアドバイス・大学院講義への参加・				芸術鑑賞	VR空間交流・天草再開発プロジェクト						
	姉妹校交流	国立中科実験高級中学	全学年	2021年10月姉妹校提携更新・両校の交流のための google classroom 設定し、google meet で現在も定期的にwebで交流中											
	グローバル体験	留学デザインProgram	全学年	世界中の留学生とオンラインで交流（年2回）し、留学をデザインする機会とする。											
		イートン校研修（英）	1・2年生												
		台湾研修													
		ボストン研修（米）													
		エンパワーメントプログラム						※+九州グローバルリーダーズサミット							
	キャリア教育	農業経営セミナー	1，2年生	農園に出向き、農業体験をする				農業の実態や経営という視点からの講話を受けたり、ディスカッションを行う							
	デジタルトランスフォーメーション（DX）の推進	本校が実施	全学年	グーグル各種アプリケーション利用（drive, classroom, forms, meet 等）・シンクボードによる教材作成・遠隔授業・各種行事ネット配信・授業におけるタブレット利用・VR交流の支援・職員研修・プログラミング講座の募集・実施・CI同好会新設等											
	ノブレス・チャレンジ	本校が実施	全学年	各分野で活躍される卒業生による講演および交流会											
	その他	学びのイノベーションプラットフォーム	全学年	産官学公教の連携（肥後銀行・NTT西日本・県内高校・教育委員会・UJA・県内企業・大学）											
		外部団体主催の国際交流・留学・研究・交流プログラム	1，2年生	東大金曜講座等、随時募集・応募促進											

成果発表会・県劇

全国成果発表会

成果発表会・校内

熊高STEAM教育の形

どのように心の火をつけるか

熊本高校生

POWER PLACE

地域企業・全国企業

武蔵野美術大学

大学・研究機関

行政・メディア等

観察・メタ認知

社会課題・もやもや

一般財団法人 三菱みらい育成財団

心に火をつける

課　題　設　定

学校の課題
・職員研修
・教育に集中できる環境

情報収集・連携

連携の課題
・高校生との価値創造
・経済・人材的に持続可能

課題

伝　承　と　挑　戦

未来図・わくわく

価　値　の　創　造

ｗｉｎ・ｗｉｎ

課題

持続可能なSTEAM教育

成果

本校の教育活動が外部の有識者や社会人、教育委員会に明らかになる点で、多くの示唆や提案、支援をいただくことができているのは大きい。また授業報告の中にあるように、WWLの方向性に沿って総合的な探究の時間の活性化や、三菱みらい財団など社会組織とのつながり、限られた条件の中ではあるが、海外との交流、そしてそれらの活動の成果発表会などは本事業の成果であると考える。その他様々な多岐にわたる活動を行っているが、これはある種の「進化の実験場」と見なせるのではないか。小さなプロトタイピングによって得られた知見をより大きな発展につなげていきたい。
・大学等との連携（武蔵野美術大学、国立中科実験高級中学等）による先進的な学びやグローバルな学びのネットワークを構築していること。・総合的な探究の時間の探究活動等の成果が、地域における実装につながっていること（全国都市緑化フェアへの参加等）。
①生徒の中に積極的な外部との連携、社会貢献、情報発信などが見られる。（ただし、個人差はある。） ②ＩＣＴ活用が急速に進んだ。
報告資料の中に、先生のサポートの低下を感じている一方、外部の目標をもったり、メンバーで共有したり、学外の人と連携するようになったという分析の一文がありました。きくらげや健軍商店街のプレゼンテーションからは、仲間と共に学外へ向かっていく姿勢が強く認められ、探究心の伸びしろが増すという将来活きる成果が感じられました。沢山ありますが、思い込みデザイン展、探究型教育の学生等の活動、成果のレベルの高さに驚きました。
社会連携、大学連携、さまざまな実験成果の中で、学生達が覚醒している様が検証されてることが素晴らしいです。この活動が社会に広まる為に重要な軌跡を残していると思います。
探究活動を生徒の『発表』と『行動』を重視しながら実施し、成果発表会が年間行事として実施できるようになったこと。この事によって、新学習指導要領の重点項目『探究』について、議論の土台に上げることができた。校内で『教育研究課』として組織が立ち上がり、変革の機運を高めることができた。予算がない中で、かつコロナ禍であり、協働的で対話的な学び等、様々な事を実行して行くことがかなり厳しかった。その中で、学校外のヒューマンネットワークには大変助けられた。連携先が繋がり、熊本高校の教育が『自前』から『社会との協働』へ動き出すことができた。生徒が、探究の質が少しずつ高まっており、お互いに良い刺激を受けている。また、徐々に探究の外部大会でも発表の回数や評価される場面も増えている。キャリア選択においても、今までよりも海外大学への進学希望や、MAUへの進学など多様性もみられている。

課題

社会の動きを見ると、「誰も取り残されない社会」という観点や高校教育という観点から、WWL事業が目指すものは、生徒の育成に向けて高校教育が今後「現実に」目指していくべきものを示しているのであり、その内容は現実から乖離した「実験的なもの」ではない。

このような本来希望に満ちた事業方針に対する自覚を十分に促すにいたっていないこと、具体的には、その方針に沿った活動が教育全体で広く行われていないことが課題であると考える。コロナ後の動きを考えるときに、教職員の意識の置き方によって、高校ごとの（学力や進学実績ではない真の教育的）「格差」が加速するのではないかと思われる

・学校内での取組の広がり（生徒間・職員間）の把握。
・「探究の交響楽（総合的な探究の時間）をはじめ、様々な取組（ワクワク研究プロジェクト、留学デザインプログラム等）の相互の関連、及び各科目等の目標（育成を目指す資質・能力）との関連についての考察。
・総合的な探究の時間の評価の充実（新学習指導要領に基づく評価）

①コロナ禍の中で休校や分散登校、活動制限などもあり、時間確保、国内外の外部との交流や活動が難しい状況がある
②ゼロ予算事業であるため、外部招聘や生徒・職員の活動等が制限される。
③学校設定科目ＧＣＰの実施について校内外の要因から実施が困難になった。
④探究（総合的な探究の時間）について手探りで進めているが、職員間のコンセンサス、働き方改革、生徒の多様性などの視点から改善が必要。

SGH実施校、特に公立校においては、中心だった担当教諭が事業終了後にすぐに異動になったり、予算がなくなった事により、また元の一般的な進学校に戻ってしまったように見えるケースもあります。多岐に及ぶ分野で、それぞれの外部提携先があると、その関係維持自体が難しいタスクとなりますが、厳しい取捨選択の視点も取り入れ、その後に備えていく必要もあるかもしれません。

全てにおいて、素晴らしい活動で、しかもデータ収集されていることが素晴らしい。あえて課題があるとすれば、この活動が日常の学生達の生活に染み込むプロセスを仕組まれた授業以外にどう装着して行くか？ではないかと思います。

学外：学外との連携やヒューマンネットワークが急速に進む中、そのリスト化、財産化していくこと。
生徒：忙しい高校生活において、バランスよく人間形成と学力向上へ学びの調節を行い、ワクワク・挑戦を高校生活で増やしてほしい。
職員：学外との連携を正しく進め、自前主義・スモールネットワークから殻を破る職員を増やす。分からない、知らなくても、教師として上に立つのではなく、生徒と同じ目線で、一緒に学び、一緒に成長する気持ちを持ち、時代が変化していることを、生徒と共に考え、進めること。キャリア教育が役に立つことを目に見える化する。
管理機関：スクールポリシーを軸にして、探究の目線合わせが必要。県や学校単位で、意識の共有をさらに推進してほしい。

展望

上記のことから、何らかのアクションを積極的に取っていくことが大切であると考える。そこから、本来の目的以上の広がりや成果が出てくる。「これまでの経験や知識から機能的に考えることが、クリエイティビティを阻害する。」という言葉の重要性を常に念頭においておきたい。

・これまでの熊本高校における取組の成果と課題の整理
・関係機関（大学、海外連携校、県外・県内連携校）との学びのつながりを強くする取組（オンラインによる協議）。
・国際フォーラムや大学先取り履修に関する制度に関する研究及び検討。
・熊本高校での取組成果の県内高校への普及（台湾との交流で使用したオンラインプラットフォームの周知・活用等）

①新型コロナの状況を睨みながら、国際交流や県内外の高校生との交流などを通して、グローバルな観点での活動を強化する。
②探究的な活動について、これまでの実績を振り返り、熊高らしい、かつ持続可能なあり方を構築する必要がある。
③「自前主義からの脱却」（中教審答申）の考えのもと、諸活動にこれまで以上に外部資源を活用する必要がある。
④WWL事業から熊本県イノベーションハイスクール指定へと繋ぎながら、その後も持続できるようなシステム構築を行う必要がある。

体験的な学びの中では、失敗そのものも貴重な学習になるので、ウィズコロナもしくはポストコロナに向けて、学外での対面での様々な機会提供の場が実施できるようにプランニングして行けると良いと思います。手前味噌の話になりますが、EIL創設者のワット博士は、Learn to live together by living togetherという言葉を残しています。ホームステイ体験では、間違いを恐れずに意思疎通を図り、多様な人々と触れ合い「違いのあることを認識」することが重要とされてます。まさにSTEAM教育の学びです。環境上、オンラインで進めざるを得ない事業が多かったと思いますが、 沢山の職種や異なる背景の人々との交流からできるだけ実践的な体験を得られる方向に向かえると良いと願ってます。

この活動は、全国的にみてもあるいは全教育プロセスの中でも大変、重要な活動であると思います。様々な分野での発表、公表する機会を作り社会へ伝播する事と、日常化、平準化する上での次のプロセスへの進化を期待します。どうぞよろしくお願いします。

『多様性』『協働』『探究』『セレンディピティ』など重要なキーワードを中心にそえて、本校でそれを推進していくことで、生徒たちが自分らしさを発見できる学校になっていくと思います。そのスキームと取組について広く普及することが、県内外へ大きな影響を与えると考えます。

ネクストアクション

身近にいるアジアの技能実習生などとの交流。外国＝西欧人ではないことをしっかり認識してもらう
スクールポリシーにあるグローバルでイノベーティブな生徒の資質を育成することに注力することを中心にした教育活動を展開していくべき。生徒の３年後ではなく、生涯を考えたとき、どんどんフラット化しつつある世界で生きていくマインドセット、ストック（蓄積型）社会からフロー（常に変化する）社会に移行する中で利他的な意識を持ち、充実した生活を送るための創造力につながる活動を行う力が重要になる。その育成を、総論賛成、各論反対ではなく、目線をそろえて行うこと。
地域社会や世界規模での実社会との繋がりを強化してゆくこと。まずは、地域社会からでよろしいかと思うが、熊本高校の生徒の研究が、学校の中で完結するのではなく、これまで行われてきた以上に、社会との繋がりを意識した取組を期待している。
全校生へ活動の広がりを見せて行くだけでなく、活動成果の広報活動、特に父兄や、他校への啓蒙、啓発が重要ではないかと思います。
同窓会の法人化や、卒業生の人材バンクデータ化など、資産の具体的な有効活用がまだであれば進めてみてはいかがでしょうか。
熊本県に将来的にやってくるであろうＴＳＭＣ、台湾からやってくる子どもたちの受入・コラボレーション、そこを突破口として今まで以上に世界に目を向けさせる仕掛けを考える。
ＷＷＬで実践してきた経験を生かし、今後は県内のイノベーションハイスクールを牽引していきたい。
素晴らしい探究活動の成果（結果だけでなく、プロセスも評価し）を社会や保護者にも積極的に広報する。 対話の時間・年度初めの時間が大切なので、その時期に研修等を学校として設定する。 生徒や卒業生に、ポリシーやレガシーを引き継ぐ際に関与してもらう。 負担感を減らす取組を学校内で行う。惰性の行事・慣習を見直し、ゼロベースで改革を行う。 （外部も含めた）様々な評価系を利用し、データで探究活動を修正しながら進める。 学校外のネットワークの力や役割を明確化し、連携のあり方を上手くマネージメントする。 日頃負担の多い先生が、他のコミュニティと繋がる中で心理的安全性を確保する。 探究活動を通した教育活動を、人事面談で項目立て、評価し、意味や価値を共有する。 熊本県教育委員会と最も密に連携を取る学校になり、県全体へ、波及していく役割を担う。

自分の色を探す子どもたち